

南部鉄器が東京 2020
公式ライセンス商品に

トピックス



水沢羽田地区の南部鉄器が2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の公式ライセンス商品になりました。同組織委員会が企画した伝統工芸品の商品化に、水沢鋳物工業協同組合が応募し、実現したものです。現在、東京2020大会に向けて新たにデザインされた急須と風鈴が市伝統産業会館などで販売中です。

6月2日
青空の下で前沢牛を堪能

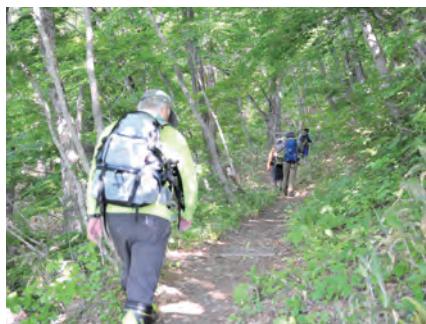
イベント



第35回前沢牛まつりが前沢いきいきスポーツランドで開催され、市内外から多くの人々が詰め掛けました。初夏を思わせる天候の下、来場者は最高峰の肉質の前沢牛を堪能。恒例の牛の鳴きまねコンテストや歌謡ショーなどが行われたほか、姉妹都市・厚真町の復興屋台も登場し、まつりを盛り上げました。

6月2日
新緑の登山シーズン到来

イベント



栗駒国定公園・焼石連峰の山開き（いさわまつり実行委員会主催）が登山口近くのつづ沼広場で行われました。県内外から集まった登山者など約100人が神事で1年間の安全を祈願。テープカットが行われると、夏山シーズンを待ちわびた登山者たちは、次々と山頂を目指し、新緑が映える登山道を進んでいきました。

6月10日～14日
世代を超えた笑顔の交流

イベント



高齢者と保育園児が触れ合う世代間交流会がまえさわ介護センターで開かれました。この催しは、高齢者を元気づけ、楽しいひとときを過ごしてもらうようと、毎年この時期に行われています。前沢保育園の園児がわらべ歌や踊りなどを披露したほか、一緒に手遊びなどで交流し、互いに楽しいひとときを過ごしました。

6月16日
映画を通じて防災を学ぶ

イベント



北股地区防災訓練に併せて、防災啓発映画の上映と講演会が同地区センターで行われました。上映されたのは、津波到達地点への桜の植樹活動など、防災を願う人々の声を集めた作品「いつか君の花明かりには」。講師を務めた山崎光監督は「時間は戻らない。後悔してほしくない」と日頃の備えの大切さを訴えました。

6月16日
受け継がれる
伝統と郷土愛

イベント



今年で35回目となる江刺神楽大会が江刺コミュニティセンターで開催されました。江刺地域の神楽団体など、伝統芸能を受け継ぐ5団体が出演し、日ごろの稽古の成果を披露。太鼓や笛などの音色に寄せ、舞手たちが郷土への思いを込めて演舞をすると、会場からは溢れんばかりの拍手が送られました。

6月2日
肌で感じる
昔ながらの農法

イベント



生態系保全と農業体験の場「田んぼの学校」の田植えが、胆沢若柳の内田ため池周辺で行われました。地元住民や岩手大学の学生など約70人が参加し、もち米の苗の手植えに挑戦しました。同大学の女子学生は昔ながらの早乙女姿で登場し、はだしで水田に入ると、土の感触を確かめながら丁寧に苗を植えていました。

6月3日
毎日使う
水道水の作り方

市政



市は、水道週間（6月1日～7日）に合わせ、水道施設見学会を開催しました。市民23人が参加し、水源である胆沢ダムのほか、ダムからの水を処理し、本市と金ヶ崎町に供給する「たんこう浄水場」を見学。参加者は、安全な水道水が作られる過程を目で確かめ、あらためて水の大切さを感じていました。

6月9日
商人のまちに活気あふれ

イベント



第66回水沢商人まつりが水沢駅通りを歩行者天国にして開かれました。同まつりは中心市街地に活気を呼び込もうと、奥州商工会議所が毎年開催しているものです。地元商店による和菓子、軽食などの出店が立ち並ぶ中、餅つきの実演や中学校吹奏楽部の演奏などが行われ、会場は多くの来場者でにぎわいました。

6月23日
奥州衣川に名調子が響く

イベント



2019初夏のジンバ祭りが奥州衣川歴史ふれあい館で開かれ、歴史講話や動物との触れ合い体験、地元産品の販売などが行われました。歴史講話では、奥州衣川青凧会と子ども講話輝凧会の会員が歴史や昔話にちなんだ演目を披露。堂々とした語り口と身振りで講話を行い、観客を物語の世界へと引き込みました。

6月25日、7月2日
景観学習で
地域の魅力を再発見

イベント



県主催の景観学習が衣川小学校で行われ、3年生14人が地域のまち歩きや景観マップの作成などに取り組みました。まち歩きでは、児童たちがデジタルカメラを持って校外に飛び出し、気になる景観などの撮影に挑戦。普段、何気なく見ていた建物や橋、草花などを写真に収め、地域の魅力を再発見していました。

6月30日
自転車で感じる栗駒焼石
ほっとラインの魅力

イベント



奥州市、一関市、平泉町を走破するサイクリングイベント「栗駒焼石ほっとライド」（同実行委員会主催）が初めて開催されました。胆沢若柳に設置された休憩所では、焼石クアパークひめかゆの前沢牛入りカレーを堪能。参加者は自然を楽しみながら、約85kmのコースを駆け抜けました。